

2017年6月4日

祝辞 全日本ろうあ連盟創立 70 周年記念によせて

この度、秋篠宮殿下および同妃殿下の御臨席を賜り、全日本ろうあ連盟の創立 70 周年記念大会が開催されるにあたりまして、世界ろう連盟（WFD）を代表し、心よりお慶び申し上げます。

1959年に全日本ろうあ連盟が WFD の正会員として加盟して以来、私たちは長い間協力関係を保ち続けてきました。これは、133 か国の会員を統括する国際的非政府組織である WFD としてもとても誇らしく思っています。

特に 1985 年から 2015 年の間、貴連盟が WFD アジア太平洋地域事務局をお引き受けいただいたことで、数多くのすばらしい成果が生み出されました。この間、全日本ろうあ連盟の方々が、地域内の役割を自発的に担ってくれました。貴連盟は、アジア地域代表者会議を開くとともに、アジア地域内でも手話言語がろう者の人権擁護のために必要不可欠であるとの理解を広めるため、数多くのワークショップや会議を開催しました。特筆すべきは、1991 年に東京での第 11 回 WFD 世界ろう者会議が貴連盟によって開催されたことです。この会議には 7,000 名以上というかつてない多くの参加者が集いました。この数字は WFD 会議の参加者数に関する記録として現在まで残っています。また、この機会を借りまして、1991 年から 2003 年まで WFD 理事を務め、その後名誉理事になられました高田英一氏の多大なるご功績に敬意を表し、WFD 理事会として大いなる感謝の意を申し上げます。

貴連盟は、ろう者のリーダーシップの能力を向上させることで地域のろうコミュニティでの組織構築を手助けする研修を提供するなど、多くの発展途上国のろうコミュニティと強固な協力関係を培ってきました。

全日本ろうあ連盟の事業は WFD の価値観と一致しており、特に貴連盟の人権問題への取り組みは、手話言語の法的認知の推進を通してろう者の人権を向上させるという WFD の使命そのものです。

さらに、2011 年の東日本大震災など、日本のろう者が体験した自然災害に対する貴連盟の人道支援活動についても敬意を表したいと思います。ここ福岡に隣接する熊本でも昨年大きな地震が発生し、貴連盟や九州の聴覚障害者団体によって惜しめない支援がなされました。また、2015 年にネパール地震が起きたときにもろうコミュニティを支援する等、近隣のアジア諸国の援助にも尽力されています。

すべてのろう者のためにより安全なコミュニティを目指し、地震の災禍に見舞われた人々を

国内のみならず世界規模でも支援しようと、これまで積み重ねてきた経験や専門知識を積極的に提供し、災害支援活動に取り組んでいることについて、WFDは高く評価し、感謝の意を捧げます。

日本のろうコミュニティにおける大きな目標のひとつは、ろう者の手話言語権を擁護することです。この運動は、日々の生活のあらゆる状況において手話言語が必要不可欠であるという知見のもとに貴連盟が取り組んでおり、国連障害者権利条約の第2条、第9条、第21条、第24条、第30条に基づいた日本政府による公認・承認が必要です。おそらく近い将来には実現され、日本手話言語を通じた公的サービスが利用できるようになり、日本のろうコミュニティが一般市民として平等性を享受できるようになるはずです。

全日本ろうあ連盟には、2017年5月29日から6月2日までの間、第112回WFD理事会を福岡で開催のためWFDを招待していただいています。わたしどもの理事会を成功裏に開くにあたり、多大なるご協力をいただきました福岡県聴覚障害者協会に対しましてもWFD理事会より厚く御礼を申し上げます。

今後とも皆さまからのご支援を願いつつ、WFDは貴連盟との関係に心からの感謝を表するとともに、全日本ろうあ連盟の末永いご繁栄をお祈り申し上げます。

敬具

世界ろう連盟理事長
コリン・アレン